

CONTENTS

診療科紹介

[総合診療科]

患者さんの入口であると同時に最後の砦—総合診療科

[病理診断科]

迅速かつ適切な病理診断が医療水準の向上および医療安全の根幹を担っています

[メンタルヘルスセンター（精神神経科）]

「人の病の最良の薬は人である」の言葉を胸に抱き地域の精神科医療に全力を尽くします

[心療内科]

歴史ある診療科

TOPICS

看護部 / 薬剤部 / 医療支援部

Toho University Omori Medical Center
Public Relations Magazine

VOL.
006

おかげさん



OKAGESAN



VOL. 006 2023 AUTUMN



“患者よし・地域よし・病院よし”の三方よしを目指し、地域の皆様に大森病院の旬な情報を年4回でお届けする広報誌「おかげさん」です。



東邦大学
医療センター

大森病院

総診療科合

教授 瓜田 純久 うりた よしひさ



患者さんの入口であると同時に

最後の砦——総合診療科

東邦

大学医療センター大森病院 総合

診療科は2003年の臓器別診療科再編によって設立され、地域の先生方に支えられて20年になりました。年間4万人以上の外来数、1500名前後の入院数は、日本の大学病院総合診療科で最も多く、これもひとえに地域医療に熱心に取り組み、患者さんをご紹介いただく先生方のおかげであり、深く感謝申し上げます。とくに2020年から医療現場を大混乱に陥らせたCOVID-19感染症は累計3千名を超えました。感染症病棟が満床になり、十分受け入れることができなかったことをお詫び申し上げます。

COVID-19など発熱患者さんを診療する総合診療科は初診2室、再診3室、救急1〜2室で運用しております。紹介いただく場合は地域連携室パートナーにお電

話いただくと予約できませんが、直接来院されてもスムーズに診療できる体制です。専門診療科が特定の疾患の多数例を診療することになります。総合診療科は多数の疾患を有する特定の他者としての患者さんを診療するスタイルであり、地域の先生方と同様です。専門診療科がより専門性を高めることができるようにサポートし、我々がセーフティネットになれるように守備範囲を広げる努力を継続してまいります。現在、日

本病院総合診療専門医5名、内科学会専門医・指導医11名、感染症専門医3名、腎臓専門医2名、日本救急医学会ICLSイン

ストラクター2名が診療に従事しております。

大学病院では多数の情報から法則を模索しがちですが、一般的原則が単独の事例により揺さぶられる経験は臨床現場で少なくありません。総合診療科では特定の他者に向かって診療しているという特殊性の感覚を重視しております。予測不能な偶有性に囲まれている臨床現場ですが、他者を選ぶのではなく、「他者とそこで遇う」機会を大事にしています。大学病院総合診療科は患者さんの入口であると同時に最後の砦でもあり、さらに研鑽に努めて参りますので、重ねてご指導のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



病理診断科

教授 栃木 直文 とちぎ なおみ



迅速かつ適切な病理診断が 医療水準の向上および 医療安全の根幹を担っています

令和

5年4月1日
から、病理診
断科をお預か

りしております。栃木直文と申しま
す。昭和の病理学といえは「白い
巨塔」の大河内教授、平成の病理
診断といえは「フラジャイル」で
すが、時代が移り行くことがあつ
ても病気の理由を考えて診断名を
付ける病理診断の重要性は変わり
ようがない、と考えております。

皆様の身体を形成する組織や細
胞の一部を拝見して、生理的範疇
から逸脱しているか否かを判断
し、診断名や所見とともに担当医
に報告書を送付しています。診断
報告書を読んだ担当医は、臨床情
報や画像所見と合わせて治療方針
を決定します。このため、病理診
断医はdoctor of doctorと呼称され
ることがあります。ほぼすべての

標本は、理科室に存在するような
「ガラス標本（プレパラート）」と
なり、光学顕微鏡による観察が主
体となります。病理診断医の肉眼
観察力と、臨床検査技師による適
切な標本作製が、正しい病理診断
の前提となっています。当科によ
る迅速かつ適切な病理診断が、大
森病院の医療水準の向上および医
療安全の根幹となることを認識し
ております。

良性か悪性か、悪性腫瘍ならど
んな「がん」なのか診断名をつけ
ていくことが第一義ですが、近年
はどのような遺伝子変異があるの
か、タンパクの異常発現があるの
か、といった治療に直結する情報
を的確に取得することが重要とな
っています。これらの結果の解
釈には、得られた検体に標的病変
が含まれていることが前提となっ

ているため、この前提の担保が病
理診断医の責務となっています。

現在、病理専門医たる教員3名
(出向者含む)、専攻医たる院内助
教3名、さらに医学部病理学講座
の3名の教員に参画いただき、診
断、教育業務および解析的研究に
携わっております。また、院外で
は小学校を中心とした「がん教育」
の外部講師として、社会貢献の一
翼を担っております。今後ともご
指導ご鞭撻のほど、お願い申し上
げます。



栃木 直文

メンタルヘルス センター(精神神経科)

ねもと たかひろ

教授 根本 隆洋



「人の病の最良の薬は人である」 の言葉を胸に抱き 地域の精神科医療に全力を尽くします

精神

神経科(メンタルヘルスセンター)は

開設以来、生物・心理・社会的(bio-psycho-social)領域にわたる精神医学・医療の発展に、広く貢献してきました。特に近年は、社会的な観点からの保健・福祉に及ぶ包括的な取り組みで、高い評価をいただけてきました。今後も地域に根差した診療を基礎として、先駆的な診療・研究活動の充実と、「より良き精神科医の育成」を目指して参ります。

近年、社会の価値観は多様化し、そこにコロナ禍も重畳し、当科を受診される方々が求める「救い」は、複雑で多様化しています。それらに対応するために、一般診療と専門診療を兼ね備え、幅広い精神疾患に対応し、地域の社会資源・サービスと密に連携した精神科医療の提供に努めています。2023年

当科は、これまで思春期・若年成人期(AYA世代)の若者を対象としたメンタルヘルスに関する研究と実践に取り組み、成果を社会実装(具体化)してきました。

さらに、日本生命保険相互会社との共同研究契約のもと、精神神経科に付設して「社会実装精神医学講座」を4月に開設しました。これは東邦大学初の「社会連携講座」であり、研究の成果を速やかにそして確実に臨床の場に戻すことを目指しています。

精神科医でもある作家の帚木蓬生さんが、その著書の中で、アフリカ大陸のセネガルに伝わる「人の病の最良の薬は人である」との言葉を紹介されています。私たちはその言葉を胸に抱き診療に従事し、責務を果たしていきたいと考えています。ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。



根本 隆洋

2月からは7対1看護基準のもとで、従来にも増して手厚く充実した入院治療を行っています。また、城南地区唯一となる特定機能病院の精神神経科として、各科と連携・協力した身体合併症治療、先進的機器を用いた診断や治療(修正型電気けいれん療法(mECT)、近赤外線スペクトロスコピー(NIRS)による抑うつ状態の鑑別診断、治療抵抗性統合失調症のクロザピン治療、ユースディケア「イルボスコ」、専門的心理検査や神経画像検査)など、地域におけるその中核的役割を自覚し、スタッフ一同励んでいます。さらに、8月からは自費診療として、公認心理師による心理面接(カウンセリング)も開始しました。これらの診療に速やかにアクセスしていただけるように、大病院精神神経科には珍しく、予約なしで初診患者を受け続けています。

心療内科

教授 端 詰 勝 敬 はしづめ まさひろ



歴史ある診療科

東邦

大学大森医療
センター大森
病院心療内科

は、1980年に開設された伝統

ある診療科です。私立では我が国

で初めて開設されました。心療内

科の「心療」ということばは「心

の治療もする内科」という意味か

らつけられています。もともとは

内科の立場で気管支喘息や糖尿病

などの慢性的な身体疾患を診てい

ましたが、身体疾患の病態を知る

うえで、または有効な治療をおこ

なううえで、心理的な面からの見

立てや治療が欠かせないというコ

ンセプトで内科から独立し、心療

内科として独り立ちしました。

当科は、心身症の診療を専門と

しております。心身症とは身体疾

患のなかで発症や経過に心理社会

的なストレスが関係している病態

を指します。胃潰瘍や気管支喘息

などの内科的な疾患、メニエール

病やめまい症などの耳鼻科的な疾

患、片頭痛や緊張型頭痛、起立性
調節障害などの機能的な疾患の
他、摂食障害も積極的に診療を
行っています。

心理療法とリラクゼーション

心身症の治療に際しては身体的

なケアと並行して、心理社会的な

側面から複合的な治療を実践して

います。特にリラクゼーション外

来を全国的にも特色ある外来であ

り、自律訓練法バイオフィード

バック療法、漸進的な筋弛緩法を

患者の特性に合わせてテーラーメ

イドの医療をおこなっています。

不定愁訴への治療

身体的な症状があるにもかかわらず、

検査をしても異常が見つから

ないということとはよくありま

す。こうした症状は、不定愁訴と

呼ばれ、一般の身診療科では対応

が難しいことも多いようです。心

療内科では、公認心理師と協働し

ながら、不定愁訴を身体面・心理
面・社会面の各側面からの評価を
おこない、原因を解明し、治療へ
と導くことを実践しています。

慢性頭痛への認知行動療法

慢性頭痛で悩まれている方が全

国から紹介されており、当科では、

片頭痛や緊張型頭痛に対する認知

行動療法をおこなっております。

当科の特徴は、最先端の薬物療法

と並行して認知行動療法をおこな

うことで、治療効果をさらにたか

めていくという点にあります。

看護部 皮膚・排泄ケア(旧WOC) 認定看護師



齋藤 容子
さいとう ようこ

保刈 伸代
ほかり のぶよ

守口 淳子
もりぐち じゅんこ

「患者さん自身が 持っている力」を信じて

皮膚

・排泄ケアと
いうと「ど
のようなケ

ア？」と思われるでしょうか？私
たちの仕事は創傷・ストーマ・排
泄のケアと多岐にわたります。

創傷の代表的なものは褥瘡（床
ずれ）ですが、最近では循環器内
科や形成外科の医師とともに下肢
潰瘍の患者さんのケアにもたずさ
わっています。

排泄に関しては、先天性や後天
性の疾患により排便や排尿の問題
を抱える患者さんへの導尿指導な
どを行っています。特に小児の患
者さんの成長過程で生じる保育園
入園や小学校入学に関する問題は
複雑なため、患者さんとご家族の
相談相手となるよう努めています。

そして、ストーマ（人工肛門・
尿路変更）ケアにおいては、手術
前から退院後の外来まで、患者さ
ん一人一人に皮膚・排泄ケア認定

看護師が担当制をとっていること
が当院の特徴で、どうしたら日常
生活への支障を少なくできるか？
を患者さんと考えながらケアを
行っています。最初からストーマ
に対してよいイメージを持つてい
る方はほとんどいません。なか
かストーマを受け止めることがで
きななかった患者さんが、生活の中
でいつのまにかストーマを受け止
め、ストーマを体の一部として大
切に向き合っている姿を拝見する
ときこの仕事にやりがいを感じま
す。私たちが言葉や直接的なケア
で支援するよりも、食事がとれ、
日々ケアを行い、ストーマを保有
して日常生活を過ごすことで、患
者さんは自分自身の力で乗り越え
ていかれます。「ストーマのおか
げでご飯が食べられるんだもん
ね。大切にしなくちゃね。嫌だけ
どね（笑）」というような言葉を
聞くと、患者さんの強さ・たくま
しさを感じます。



ストーマケアをしていると、時
折患者さんから「汚い仕事をさせ
てごめんなさい」と謝られること
があります。そんな時、長い間ス
トーマを受け止めることができ
ず、ケアのたびに震えるほど緊張
されていた患者さんから「素敵な
お仕事ですね」と言っていただ
いことを思い出します。ストーマ
ケアを「汚い仕事」ではなく、「患
者さんを支える素敵な仕事」と
思っていただけのように、迷いの中
にいます患者さんも、病気に立ち向
かっている患者さんも、日常生活
に戻られた患者さんも、支え続け
ていきたいと思っています。

消化器センター・ストーマ外来…
毎週 水・金(予約制)

安心・安全な医薬品使用を推進する

医療

の質の向上および医療安全の確保の点から、チーム医療において薬剤師が主体的に薬物療法に参加することが求められています。薬剤部では医薬品の適正使用の観点よりさまざまな角度からこれを推進していきます。

薬剤管理指導業務

全病棟に薬剤師を配置し、持参

薬の確認、服薬指導、医薬品の副作用や有効性の確認を行うことで入院患者の薬剤管理を行っています。また退院時にはお薬手帳を配布し、処方内容や患者情報について保険薬局への情報提供も行って

います。

がん化学療法への参画

抗がん剤は処方内容・薬用量のチェックを行い、全て薬剤師による無菌調製を行っています。昨年



12月には抗がん剤自動調製ロボットによる最新技術の導入も行いました。また外来化学療法室に薬剤師を配置し、化学療法施行中の患者様への副作用管理や薬剤師外来による抗がん剤の説明も行っており、安心安全な化学療法実施のために取り組んでいます。

保険薬局とのトレーシングレポートによる連携

当院の院外処方せん発行率は約95%であり、院外処方せんに対する保険薬局からの疑義照会には夜間も対応しています。また、トレーシングレポートを用いて保険薬局と外来患者の情報共有を行って

り、特に抗がん剤治療や心不全治療の領域では、保険薬局からの情報提供により、副作用の早期発見と対応ができた例も多くあり、成果を上げています。

フォーミュラリ

（エビデンスと経済性に基づく医薬品選択の指針）の作成

フォーミュラリは医薬品の有効性・安全性など科学的根拠と経済性を総合的に評価した医薬品の使用指針であり、良質で低価格な医薬品の使用に基づいて、標準薬物治療を推進することを目的とするものです。現在、睡眠導入剤をはじめ4種類のフォーミュラリを作成し、当院薬剤部ホームページ<https://www.lab.toho-u.ac.jp/med/omori/yakuzai/unit/yakujoho.html>で一般公開しています。薬剤選択の参考資料としてお役立ていただければと考えています。



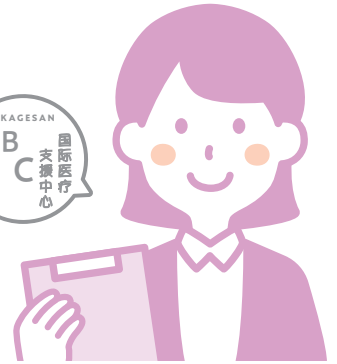
薬剤部

薬剤部長 松本 高広 まつもと たかひろ



医療支援部

医療支援部 課長 山本 太郎



通訳はジャンパーを羽織った Guardian angel です

東邦

大学医療センター大森病院
医療支援部に

は医療専門用語や異文化コミュニケーション力を備えた通訳者が在籍しており、外国人患者さんと医療従事者との「言語の媒介者」「文化的橋渡し役」として活動しております。

傷病のため特に不安な状態にある外国人患者さんにとって、英語が堪能である国民が少ない我が国にあって流暢な英語を使いこなす通訳者が診療の場に登場すると

「Guardian angel」と喜ばれ、

「Thank you for your support!」

このようなお言葉をいただくことが多々あります。

病院内では通訳者が本誌表紙写真のジャンパーを羽織って活動しています。英語・中国語対応でお困りの際は、どうぞお気軽にお声かけくださいませ。



INFORMATION

東邦大学医療センター
大森病院

Omori
Ota
Tokyo



<https://www.omori.med.toho-u.ac.jp/>

初診受付時間

月曜日～土曜日（下記休診日を除く）
8:30～11:00（一部を除く）

休診日

第3土曜日・日曜日・祝日・
年末年始（12月29日～1月3日）・
創立記念日（6月10日）

臨時診療日

10月9日（月・祝）・11月23日（木・祝）
平日診療体制といたしますが、診療予約のない方は「休日加算」を適用いたします

臨時休診日

10月14日（土）・11月4日（土）

編集後記

今号も「おかげさん」を最後までお読みいただきありがとうございます。
今年も猛暑が続きました。今年度次々と最高気温が更新された年でしたが、神無月に入ると秋気さわやかな季節となり過ごしやすくなってまいりました。皆様におかれましてはご健勝に過ごされていること存じます。

さて、地域医療支援センターでは、日頃より連携している医療機関の皆様を本学医学部東邦アリーナ（体育館）へお迎えし、4年ぶりに対面での「第18回地域医療連携学術セミナー」を9月2日に開催することができました。第一部・講演会は「小児から成人へのシームレスな医療」をテーマに小児科領域の先生方にご講演をいただきました。第二部の懇親会では多くの連携医療機関の方々と情報交換ができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。95施設／140名の方にご参加いただき、開催できましたのも皆様の「おかげさま」と心より感謝申し上げます。



(C・M)